

●「第 8 回札幌国際短編映画祭 (SAPPORO ショートフェスト 2013)」の開催について

9 月 11 日から 16 日まで、札幌プラザ 2・5 をメイン上映会場に「第 8 回札幌国際短編映画祭 (SAPPORO ショートフェスト 2013)」を開催します。

ことしは、世界 94 の国と地域から過去最多の 3,746 作品の応募があり、その中から北海道セクション 10 作品を含むオフィシャルコンペティション対象の 99 作品や、過去の受賞作品を集めた「アワード・ベスト」など、約 200 作品を上映します。

また、若い世代に映画の魅力をより知ってもらい、映像制作にも関心を持ってもらう契機とするため、一部を除き、ことしから高校生以下は入場無料とする取り組みを始めます。

さらに、まちづくりセンターでの子ども向け上映会や定期上映会「マンスリー・ショート」を実施するほか、オータムフェストとも連動した旅行ツアーを企画するなど、市内外からの来場者の増加に向けた取り組みを行っています。

1 実施概要

(1) オープニングレセプション

日時：平成 25 年 9 月 10 日 (火) 開場 18:30、開演 19:00

場所：札幌プリンスホテル国際館パミール (中央区南 3 条西 12 丁目)

(2) 映画祭本祭

日時：平成 25 年 9 月 11 日 (水) ~9 月 16 日 (月・祝)

10:00~23:30 (上映時間等の詳細は、別紙映画祭プログラムを参照。)

場所：メイン上映会場：札幌プラザ 2・5 (中央区南 2 条西 5 丁目 (狸小路 5 丁目))

特別上映会場：シアターキノ (中央区南 3 条西 6 丁目 (狸小路 6 丁目))

マーケット/イベント会場：イベントスペース EDiT (中央区南 2 条西 6 丁目)

(3) アワードセレモニー

日時：平成 25 年 9 月 15 日 (日) 開場 17:30、開演 18:00

場所：札幌プリンスホテル国際館パミール (中央区南 3 条西 12 丁目)

2 応募作品数

世界 94 の国と地域から、3,746 本。(過去最多。昨年応募数は 2,723 本。)

3 ことしの見どころ

(1) 「アワード・ベスト」の上映

第 7 回札幌国際短編映画祭作品部門グランプリの「アルマゲドン」や、同映画祭のオーディエンスアワード (観客賞) を受賞し、さらに今年のアカデミー賞の短編実写映画賞も受賞した「ソフィアの門限」等、過去の受賞作品を中心に上映。

また、「ソフィアの門限」で、昨年の最優秀子役賞を受賞したファティマ・パタチェックが来日予定。

(2) 「フレンチ・ショート」の特集

フランス映画祭と連携し、フランスのアカデミー賞にあたるセザール賞を受賞した「オマール海老の叫び」など、ことしのフランス映画祭で上映された短編映画 5 本を上映。

(3) その他

昨年に引き続き東日本大震災関連作品を集めた「After3.11」や、初音ミク等の CGM (コンシューマー・ジェネレイテッド・メディア) 作品を大画面で鑑賞できる「CGM アワード」などを上映。

4 映像人材育成の取り組み

札幌が世界に誇れる映像の都市として発展していくために、若い世代にも映画の魅力を知ってもらおうとともに、映像制作にも関心を持ってもらおうと取り組みを進めている。

【主な取り組み】

- 高校生以下は鑑賞無料（一部プログラムを除く）
- 教育フォーラム（9月14日）
北海道セレクションにノミネートされている札幌の中学生の作品*のメイキング映像の上映や、同作品の制作関係者による活動報告など。
※ 作品名は「僕らの興味期限切れの夏」。東京の「キンダー・フィルム・フェスティバル」のティーンズ・フィルム・コンペティション部門でグランプリを受賞している。
- 子ども審査会
「ファミリー&チルドレン」部門の全10作品を鑑賞し、「子ども審査員賞」の受賞作品を選定。
- アイアンフィルムメーカーコンテスト
大学生や社会人を対象に、24時間以内に1分の短編映画を制作するアイアンフィルムメーカーコンテストを、「だい・どん・でん！ さっぽろパフォーマンスカーニバル2013」（8月30日～9月1日開催）会場で開催。グランプリ作品は、オープニングレセプションにて発表。

5 札幌国際短編映画祭 PR 上映会

映画祭の開催期間外にも短編映画を見る機会を提供するため、まちづくりセンターや図書館、動物園などで、無料PR上映会を開催。全て無料で、途中の出入りは自由。

【今後の予定】

- 野外上映会（大通公園西6丁目）
日時：平成25年8月30日（金）19：00～ ※雨天中止
- 定期無料上映会「マンスリー・ショート」
日時：毎月第2金曜日 18：30～（90分程度）
※ 9月は映画祭開催時期のため、休止
場所：インタークロス・クリエイティブ・センター（ICC） 1階
（白石区東札幌5条1丁目1-1 札幌市産業振興センター内）

6 その他

(1) オータムフェストと連動した旅行ツアー

T-TRAVEL（ツタヤトラベル、http://ttravel.jp/orgtour_jp/1307/ssf/）が、同映画祭やオータムフェストを2泊3日で巡るツアーを企画。

(2) 国際審査員の市長表敬訪問

日時：平成25年9月12日（木）13：00～13：15

場所：市長会議室

※国際審査員の略歴は別添参照

問い合わせ先

経済局産業振興部ものづくり産業課 江積・亀苔
電話：211-2379

第8回札幌国際短編映画祭 国際審査員 略歴

◎佐々木 穰 <作家／北海道>



北海道夕張市生まれ。1979年「鉄騎兵、跳んだ」で文藝春秋「オール読物新人賞」を受賞し、作家デビュー。歴史や犯罪を主に題材に採り、ジュブナイル小説も手がけている。2010年「廢墟に乞う」で第142回直木賞を受賞している。作品は社会派エンターテインメントで広く知られ、映画やテレビドラマ化されている作品も多い。

ヤン・ヨンヒ <映画監督／日本>



2005年長編ドキュメンタリー「ディア・ピョンヤン」を発表、国内外の映画祭で高い評価を受ける。2012年公開の3作目、初の劇映画「かぞくのくに」はベルリン国際映画祭で国際アートシアター連盟賞を受賞。国内ではキネマ旬報ベスト・テン日本映画1位、ほか複数の映画賞を受賞し、第85回アカデミー賞外国語映画賞の日本代表作にも選出された。

◎フレッド・ディーキン <ビジュアル・アーティスト、ミュージシャン／イギリス>



マーキュリー賞とブリット・アワードでノミネートされたレモンジェリーのメンバーとして活躍。また革新的なデザイン・エージェンシー、エアサイドの共同創設者。現在はロンドンのセントラル・セントマーティンのMAコミュニケーション・デザイン・コースで教えるほか、インタラクティブ・ベンチャーのFred&Companyを運営している。

ロジャー・ガルシア <香港国際映画祭エグゼクティブ・ディレクター／中国・香港>



香港インターナショナル・フィルムフェスティバル・ソサイエティのエグゼクティブ・ディレクター。香港出身だが、イギリスで教育を受ける。映画評論家として多くの出版物で論説を発表。また、プロデューサーとしてアジアとハリウッドで映画制作をしてきた。ディレクターとして映画祭、アジアン・フィルム・アワードなどの制作指揮をとっている。

◎アリソン・ストーナー <女優・ダンサー・シンガー／アメリカ>



1993年オハイオのトリード生まれ。女優としてさまざまな作品に出演しており、「Cheaper by the Dozen」、「キャンプ・ロック」シリーズ、「Step Up」、「Step Up 3D」などが有名。また、「Mike's Super Short Show」のサリー役、アニメ「フィニアスとファーブ」のイザベラ・ガルシア・シャピロ役としても知られている。また複数の有名アーティストたちのバックダンサーを務めた。自身のオリジナルアルバムのほか、出演作でも歌を披露している。

※ ◎は、市長表敬訪問予定者